

令和三年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程

Ⅱ 国 語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は問四 までであり、1ページから13ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、記入またはマークしなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、その番号の○の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目(例：

.....
-------

)がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番



問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の1～4の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代仮名遣いで書きなさい。

1 庄巻の演技だった。

2 買った魚を冷凍する。

3 地図を透写する。

4 むだづかいを戒める。

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

a 本社にエイトンする。

1 勝者のエイヨをたたえる。

2 エイエンに広がる宇宙について学ぶ。

3 挑戦者を退けて王座をボウエイする。

4 記録としてエイゾウに残す。

b ショウゲンとして君臨する。

1 長い言葉をショウリヤクする。

2 ブショウが兵を率いる。

3 物質をネンショウさせる。

4 和歌をアンショウする。

c チョウカンに連載された小説を読む。

1 市役所のチョウウシャを見学する。

2 弱ったイチョウの機能を食事で高める。

3 改善のチョウコウが見られる。

4 ソウチョウから活動する。

d アバれている馬をなだめる。

1 公園のテツボウで遊ぶ。

2 古代の国家がメツボウした。

3 ボウキョを食い止める。

4 他国とボウエキする。

(ウ) 次の各文の□にはすべて同じ漢字一字が入る。その漢字として最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

みんなの意志を□重する。  
世界の平和を□ぶ。

□い精神の持ち主だ。  
この寺の本□は有名だ。

1 堂

2 尊

3 喜

4 貴

(エ) 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

1 先生にお目にかかりたいと思います。

2 担当者はすぐにこちらに参ります。

3 当店の店長にお会いしてください。

4 約束の時間にうかがいます。

(オ) 次の文章中の  に入れることわざとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

グループで職場見学に行く当日の計画表を作成するための話し合いを行った。案をいくら出してもそれに反対する意見が必ず出るといふ状況で、なかなか計画が決まらない。まさに  だと思った。

- 1 縁の下の力持ち
- 2 右に出る者がない
- 3 好きこそものの上手なれ
- 4 右と言えば左

(カ) 次の文章は、古代中国の古典である「論語」について説明したものである。文章中の——線にあたる人物として最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

「論語」は、古代中国の思想家とその弟子たちとの言行を記録したものである。「論語」に収められた言葉には、この思想家の、人間の生き方についての鋭い観察や深い思索が表れており、二千五百年以上たった今でも日本の学問や思想に影響を与えている。

- 1 李白
- 2 孔子
- 3 杜甫
- 4 孟浩然

(キ) 次の俳句を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

石田 郷子

- 1 吹き渡る強い風の中でじっと立っている揺るぎない自分自身を、「うごかざる一点」と表現するとともに、嵐という視点から自己をとらえるさまを効果的に描いている。
- 2 変化の激しい状況でじっと我慢している自分自身を、「一点がわれ」と表現するとともに、強い風を受ける中で自然とともに生きようと決意するさまを比喩的に描いている。
- 3 強い風によって季節が一気に移行することに心が浮き立つ自分自身を、「われ青嵐」と表現するとともに、高ぶる感情を抑えることができないさまを象徴的に描いている。
- 4 待ち焦がれた春が到来し生き生きと活動している自分自身を、「青嵐」と表現するとともに、自分を強い風に重ね合わせて一体に感じているさまを感覚的に描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

東京のスイミングクラブに所属していた「航こう」は、小学五年生のころ、同じチームのメンバーだった「ジュン」たちとの関係の悪化がきっかけで、水泳から心が離れていた。小学六年生になってから、両親の都合で他の県に引っ越した「航」は、そこで出会った「大瀬龍之介おほせりゅうのすけ（龍ちゃん）」「海人かひと」「信司しんじ」に誘われ、再び泳ぎ始めた。コーチの指導を受けながら、四人は県大会を目指して水泳大会に出場したところ、「龍之介」が個人種目でフライングをしてしまった。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(注) 高田 由紀子「スイマー」から。一部表記を改めたところがある。  
目のこと。

DSQはスポーツ競技でルール違反による失格のこと。  
ビクトリーは「航」が東京にいたときに所属していたスイミングクラブの名称。

(ア) —線1「弱いんだね。ぼくは……逃げないよ。」とあるが、そのように言ったときの「信司」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 失格になってしまったことを誤審だと決めつけて現実を受け入れようとしないう「龍之介」に対して、失敗の責任を他人に押しつけるかのような態度をやめさせようとしている。

2 失格になってしまったことで落ち込んでいる「龍之介」に対して、競技で相手に勝つ思いが弱かったために逃げてばかりだった過去の自分を思い出して同情を示そうとしている。

3 失格になってしまったことにかえって観客の注目を集めることができたと言っていると満足げに語る「龍之介」に対して、一緒に競技に出場する一員としての資格がないと見放そうとしている。

4 失格になってしまったことを理由にメドレーリレーへの出場に弱気な「龍之介」に対して、考えを改めさせるために勇気を振り絞って自分の水泳への姿勢を見せようとしている。

(イ) —線2「でも、今ならわかる。」とあるが、そのときの「航」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「龍之介」たちと泳ぐ中で、一番をとれば周囲の人から認められた東京のスイミングクラブの心地よさを思い出し、東京に戻りたいと思う自分と向き合えるようになっていく。

2 「龍之介」たちと泳ぐ中で、東京にいたときの大会でだれよりも速く泳ぐことにこだわっていた理由を振り返り、本来の泳ぎができなかった自分と向き合えるようになっていく。

3 「龍之介」たちと泳ぐ中で、速さを追求するあまりぎこちなくなっていた泳ぎを見直し、水泳を始めたころに立ち返って基礎からやり直すことが必要だと理解するようになっていく。

4 「龍之介」たちと泳ぐ中で、東京にいたときの大会で失格になっても気にしなかった自分をはずかしく思い、チームに迷惑をかけることの深刻さを理解するようになっていく。

(ウ) —線3「はずかしいやらムカつくやらで、体から煙が出そうだ。」とあるが、そのときの「航」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 自分の過去の失敗を打ち明けることでチームに必要とされたいと思っていたところ、「龍之介」が自分の気もちを理解してくれなかったため、やり場のない思いをもてあましている。

2 自分の過去の失敗を打ち明けてまで前向きな気もちになってほしかったのに、「龍之介」がフライングを思い出して落ち込んでしまったため、どうしてよいかわからず戸惑っている。

3 自分の過去の失敗をさらけ出すことで失敗してもやり直せることをわかってほしいと思っていたところ、「龍之介」が気もちを切りかえてくれたため、充実感で心が満たされている。

4 自分の過去の失敗をさらけ出してまで一緒に泳ぎたいという気もちを伝えたのに、「龍之介」がその失敗をからかうだけで思いに応じてくれなかったため、複雑な心情を抱いている。



(エ) —線4「……ほんどに行けなきや、意味ねえっす。」とあるが、ここでの「龍之介」の気持ちをおまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 県大会出場のために練習を積み重ねてきたにもかかわらず、自分の満足のいく泳ぎをできなかった残念な気もちが周囲に伝わるように語気を強めて読む。
- 2 ベストタイムを出したにもかかわらず、失格になったことによって個人種目では県大会に出場できない悔しさをこらえながらしほり出すような声で読む。
- 3 県大会に出られず落ち込んでいるにもかかわらず、失格した事実を皆の前でつきつける無神経なコーチに対する怒りをぶつけるように力を入れて読む。
- 4 ベストタイムで泳ぐことができたにもかかわらず、失格になってしまったことを厳しく責めるコーチの言葉を受け止めるように一語一語を丁寧ていねいに読む。

(オ) —線5「でも、それ以上の感情がわきあがってきて、おれをつき動かす。」とあるが、そのときの「航」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 一度泳ぐことをやめた自分を導いてくれた仲間の一人だからこそ、自分のふがない過去を打ち明けてでも「龍之介」と一緒にメドレーリレーを泳ぎたいという気もちが高まっている。
- 2 過去の自分のようにタイムや順位を上げることしやうちやくに執着しやくちやくしてしまおうと、「龍之介」と大会に出て思い出を作るというチームの本来の目的を果たせなくなってしまうと動揺どうごうしあせっている。
- 3 県大会で結果を出して東京にいたときのチームを見返したいからこそ、「龍之介」が泳ぐことによつて優勝の可能性があるまたとない機会を逃したくないという気もちが高まっている。
- 4 メドレーリレーに出ないまま「龍之介」が大会を途中で投げ出してしまおうと、再び水泳と向き合うと決めた自分の決心がむだなものになってしまうという不安にかられてあせっている。

(カ) —線6「龍之介はタオルを受けとると、『すまん。』とつぶやき、テントに向かつて歩き出した。」とあるが、そのときの「龍之介」を説明した次の文中のⅠ・Ⅱに入れる語句として最も適するものを、本文中の▼から▲までの中から、二字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

フライングしたことによるショックが大きく、メドレーリレーに出場する意味を見失っていたが、仲間からの説得や「航」の過去の経験を聞くうちに、失格というⅠから逃げ出すのではなく、Ⅱに変えようと考えようになり、もう一度泳ぐ決意をした。

(キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 登場人物がそれぞれに抱えている困難な課題を順番に打ち明けて話し合うことによつて解決策を見つけ出していくさまを、読点を多く用いることで軽快に描いている。
- 2 一度の失敗によつて深く傷ついた「龍之介」が仲間からの励ましによつて自信を取り戻していくさまを、擬態語ぎたいごを巧みに生かした表現によつて印象的に描いている。
- 3 登場人物たちがそれぞれの気もちや考えを話すことでチームとしての結束が強まっていくさまを、会話文と心の中の声を織り交ぜることによつて効果的に描いている。
- 4 泳ぎが思うように上達せず悩んでいた「龍之介」が仲間と交流する中で再び水泳と向き合う気もちを取り戻すさまを、方言を用いることで臨場感豊かに描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(除本) 理史・佐無田 光「きみのまちに未来はあるか？」から。一部表記を改めたところがある。

(注) ニーズ顧客の望むものこと。

限界費用ゼロ社会 生産量を増加させたときに追加の費用がかからない社会のこと。

スクラップ・アンド・ビルド 古くなったものを廃棄して新しくつくること。

プロセス 手順。過程。

アイコン ここでは、ある対象を示す際に代わりとして表す目印。

都市格 都市がもつ固有性。

(ア) — 線1 「従来の経済活動や価値に対する考え方を大きく変えています。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 新しい開発手法によって生産技術が向上したことで企業間での技術力の差が狭まり、他社よりも利益を出すために自社の商品の魅力を宣伝することが重要になったということ。

2 商品を大量に生産し消費するという経済の仕組みが行き詰まり、人びとの考え方の変化にともなっていないままで注目しなかった事柄に人びとが目を向けるようになったということ。

3 大量に生産した商品を消費することだけでつづいていた経済成長が止まり、国全体の消費が減った現代においては企業間での価格競争によって値下げが激しくなったということ。

4 古くから伝わってきた地域の歴史や風土に根ざした商品から魅力が失われ、目新しく話題をあつめるものにと取って代わったことで期間限定商品の希少価値が上がったということ。

(イ) — 線2 「現代では『モノづくり』だけでなく、『コトづくり』(ストーリーの生産)が重要になっている」とあるが、それを説明した次の文中の [ I ] ・ [ II ] に入れる語句として最も適するものを、本文中の ▼ から ▲ までの中から、五字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

従来の経済活動の常識では、新しいものを生産することだけが [ I ] を生み出すと考えられているが、現代では、知識や情動、倫理や美しさといった [ II ] が「モノ」にどれだけ付与されているかということが重要になるということ。

(ウ) — 線3 「地域の歴史やその場所のストーリーを『リセット』することこそが開発だ」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 スクラップ・アンド・ビルドをすると、新しくきれいなものを効率的につくることは可能だが、昔から積み上げてきた歴史を壊してしまう方法であるため、地域がもつ個性を保つのは難しい。

2 スクラップ・アンド・ビルドをすると、いままで使っていたものと同じ形にすることが可能だが、質感を再現できない方法であるため、見た目が同じだけで中身が異なるものになってしまう。

3 スクラップ・アンド・ビルドをすると、歴史や伝統を消し去ることが可能だが、新しいものを生み出すことができない方法であるため、地域がもつ個性を新たにつくり上げていくことは難しい。

4 スクラップ・アンド・ビルドをすると、暮らしの便利さを維持していくことは可能だが、修繕や修繕に特化した方法であるため、いまま上の生活の豊かさを望むことはできなくなってしまう。

(エ) — 線4 「現代的な開発手法」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 全てのものに多額の費用をかけるのではなく特別な歴史的価値があるものだけを選定し、改修を繰り返すことで、地域がもっていた魅力の再生をアピールしていく手法。

2 いままでは取り壊していた古風な建物に歴史的価値があると判断し、景観を保存するために多額の費用をかけることで、地域がもっている雰囲気を持続していく手法。

3 特徴のない地域になってしまっても昔ながらの雰囲気をそのままの状態で残し、必要最低限の修繕だけにとどめることで、地域の人びとの生活の質を守っていく手法。

4 費用をかけて開発するのではなく地域が築いてきた歴史を見つめ直し、人びとが求める生活の質や地域の個性を形にすることで、新しい価値を見つけ出していく手法。

(オ) 線5「過去から継承してきたものに対して、現代的に磨きをかけていくこと」とあるが、それを説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 人びとが、地域に受け継がれてきた固有の資源を大切にしながら、新たな価値をつくり上げていくこと。
  - 2 人びとが、地域に受け継がれてきた歴史や自然を大切にしながら、新たな取り組みを排除していくこと。
  - 3 人びとが、地域の個性を大切にしながら、過去にとらわれずに時代に合った知恵を出し合っていくこと。
  - 4 人びとが、地域固有の資源を大切にしながら、利用できるものは何でも積極的に取り入れていくこと。
- (カ) 本文について、中学生のAさん、Bさん、Cさんの三人がグループで話し合いをした。次の文章は、そのときの一部である。話し合いの中の□に入れるものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

Aさん 筆者は二〇世紀から二一世紀にかけて、時代の移り変わりとともに経済活動や価値に対する考え方が変化してきていると述べています。

Bさん かつては「モノづくり」が大切であり、いかに新しい「モノ」を手に入れるかということに価値が置かれていたのですね。

Cさん そのため、地域が個性を失っても開発が進められ、新しい「モノ」をつくりつけてきたのです。

Aさん しかし、人びとのニーズが変わってきたため、従来の経済活動に対する考え方も変わり、「コトづくり」が重要になってきています。

Bさん そうですね。筆者は、人びとが「モノ」の量的な豊かさを求めるのではなく、「モノ」から得られるものを重視するように変化してきたと述べています。

Cさん このようなニーズの変化によって、現在では、歴史あるものの特性を生かしつつ時代に合った機能や意味を付加して再生する「リノベーション」が、さまざまな地域で展開されています。

Bさん 地域のリノベーションとは、「根っこ」の意味を再評価し、地域の資源とすることを意味すると筆者は述べています。

Aさん しかし「根っこ」は当たり前すぎて人びとに認知されない場合もあるようですね。「根っこ」とはどういったものをさしているのでしょうか。

Cさん 「根っこ」とは□をさしているといえます。

- 1 感動を与えられる、その地域固有の観光資源といえるもの
- 2 都市部にはない、自然が豊かな地域だけに存在しているもの
- 3 地域の中で育んできた、人びとの知恵の結晶といえるもの
- 4 世間の流行にはない、地域の人びとにとって愛着があるもの

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注) ある薬師が、「君は必ず今秋の頃、何ぞのいたづきにかかり給はん。」と言ふを、むづかりて、「いかにかかるはずはない」  
 さることあらん。」と、秋までは言ひぬ。つひに、いたづきにかかりてければ、言ひあてし薬師にあはんも、おもてぶせなりとて、よその薬師招きてけり。さまざま薬あたへたるがしるしも見えず。初めのほどは、うちのそこねしなるべしとて、うちととのふる薬なりければ、胸のあたりいよいよ苦しく、ものも見入れねば、薬師も心得て、その薬はやめつ。こたびは汗にとらんとしても、しるしなく、下さんとすれば、腹のみ痛みて、いよいよ苦し。せんかたなくて、こころみにふとてうせし薬、その病にあたりやしけん、飲み下すより、胸のうちこちよく、つひにその病癒えにけり。命たすけし人なりとて、家傾けても報いまはしく思ひしとなり。

(一) さるに、「今秋は、必ずこの病出づべし。この薬今より飲み給へ。」と言ふを、いま一人の男、「いかでさあらん、されど、言ひ給はば、飲みてまゐらすべし。」とて、ひとことのやうに飲み居たるが、つひにその病もおこらず。常にかはりしことなかりしかば、「さればこそ、かくあるべしと思ひしを、あの薬飲までもあるべきものを。」と言ひしとや。

(松平 定信「花月草紙」から。)

(注) 薬師＝医者のこと。

(ア) 線ア～エの中から、他と主語が異なっているものを次の1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ア                      2 イ                      3 ウ                      4 エ

(イ) 線1「よその薬師招きてけり。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自分が病気にかかっていることを「ある薬師」に隠していたが、知られてしまったため、言い訳ができなくなって「よその薬師」を呼んだということ。
- 2 「ある薬師」から病気にかかることを予見されたが、説明が難しく理解できなかったため、嫌な気持ちになって「よその薬師」を呼んだということ。
- 3 自分が病気になることを信じていなかったが、「ある薬師」の予見どおりに病気にかかったため、気まずく思つて「よその薬師」を呼んだということ。
- 4 「ある薬師」に病気を治してもらったが、直接礼を言うことが照れくさくなったため、代わりに伝えてもらおうと「よその薬師」を呼んだということ。

(ウ) —線2「家傾けても報いまほしく思ひし」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 全財産を使い果たしてでも、自分がかかる病気を今後も予見してもらいたいということ。
- 2 全財産を投じてでも、自分がかかった病気から逃れる方法を人々に広めたいということ。
- 3 全財産を使い果たしてでも、自分を病気から救ってくれた薬を買い占めたいということ。
- 4 全財産を投じてでも、病気から自分の命を救ってくれた薬師に恩を返したいということ。

(エ) —線3「あの薬飲までもあるべきものを。」とあるが、「男」がそのように言った理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 病気にかからないために処方された薬以外にも薬を飲んだが、結局病気にかかってしまい、薬に頼った自分を情けなく思ったから。
- 2 病気を悪化させないために薬を飲んだが、効き目がないうえに病気が進行してしまい、薬を処方した薬師を信用できなくなったから。
- 3 病気にかからないために薬を飲み続けたが、結局薬師から予見された病気にはかからず、いつもどおりに過ごすことができたから。
- 4 病気を悪化させないために薬を毎日欠かさず飲んだが、体調が改善されず、他に効き目のある薬があったかもしれないと後悔したから。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「ある薬師」が知識を用いて試しながら調べた薬が病気に効かなかったように、有名な医者だからといって全ての人々を救えるわけではない。
- 2 「ある薬師」が病気を予見してあげた人に信じてもらえなかったように、専門の知識を持った人が言ったことだとしても人は簡単には信用しない。
- 3 「よその薬師」が病気に効く薬を選択することができなかったように、知識が豊富だからといって全ての薬の効能を記憶できている医者はいない。
- 4 「よその薬師」が病気を予見したことで感謝されたように、医者は治療するだけでなく病気を予見する能力も持ちあわせていなければならない。

(問題は、これで終わりです。)

